

# 高齢期の犬も快適に過ごせる住まいを！

### 犬の高齢化が進んでいます

小・中型犬では10歳、大型犬では8歳から高齢犬とみなすのが平均的な考え方です。

最近、獣医学の発達やワクチン接種の普及による感染症の減少、また、飼い主さんの意識の変化、飼育環境の整備などによって犬の寿命もどんどん延びてきています。一般的には、大型犬で10歳前後、小・中型犬で15年前後ですが、なかには大型犬で15年、小・中型犬で20年以上生きる犬もいます。

#### One Point Advice

##### 飼育環境によって犬の寿命は長くなる！

一般的に寿命が長いのは、大型犬より小型犬、屋外飼いよりも室内飼い、肥満している犬よりもやせている犬のほうだと考えられています。

屋外飼い < 室内飼い

肥満している犬 < やせている犬



### 高齢期になると犬はどう変わる？

では、老化によって犬にはどのような変化があらわれるのでしょうか。

一般的には、活動性やトレーニング能力の低下、協調性の減退、短期の記憶喪失、性格や行動の変化、睡眠時間の増加など。また、白髪が増える、皮膚にイボやシミができる、あごや口のラインが下がる、筋肉や関節が弱くなる、内蔵機能の低下などの体の変化もみられます。

生活にもさまざまな支障があらわれ、体温調整がしにくくなる、段差の上り下りが辛くなる、小さな段差につまずく、段差から落ちこちる、モノにぶつかる、トイレを失敗するなど、細かく気を配ってあげる必要がでてきます。

### 老犬の健康を保つために……

食餌は、塩分が少なく、消化吸收の良い高タンパク質のものを。散歩に出かけ、できるだけ犬の集まるところに行ったり、途中でニオイをたくさん嗅がせたり、適度な刺激を与えてあげることも大切です。

住環境は、段差をできるだけ解消し、フローリングなど滑りやすい床は絨毯などを敷いて足腰にやさしい環境に。また、静かで安心して休め、孤立感のない、清潔な環境が保てる居場所をつくってあげたいものです。歳をとってから急に住環境を変えるのは犬にとって負担になるので、リフォームや配置替えは早めに考えましょう。

#### One Point Advice 老犬にもやさしい住環境を！

大切な家族の一員である犬が高齢期になっても快適に暮らせるように、安心できる居場所の確保、安全で清潔が保ちやすい住まいづくりを心がけましょう。床や壁などは掃除がしやすくメンテナンスの楽なものを。床は滑りにくく硬くないものを選ぶことがポイントです。

「愛犬家住宅」づくりのご相談先